

2016年度 京都大学経済研究所

第77回 CAPS 研究会

及び

2016年度京都大学経済研究所共同利用共同研究拠点

「実証分析及び理論モデル分析を通じた、近年の財政制度改革が  
将来の日本財政・マクロ経済に与える効果に関する研究」研究集会

2017年2月3日（金）

於 京都大学経済研究所北館 N202 教室（吉田キャンパス）

開会の辞 15:30

第1報告 15:30～16:00

熊倉誠和（財務総合政策研究所）

「格差と再分配をめぐる幾つかの論点 — 国際サーベイと日本へのインプリケーション —」

第2報告 16:00～16:30

小玉高大（財務総合政策研究所）

「生涯ベースでみた家計の受益・負担 — 『全国消費実態調査』個票による実証分析—」

第3報告 16:30～17:00

服部孝洋（財務総合政策研究所）

「ドル調達コストとカバー付金利平価について（Dollar Funding and Covered Interest Rate Parity）」

第4報告 17:00～17:30

山崎丈史（財務総合政策研究所）

「Structural estimation of sovereign default model」

閉会の辞 17:30